

H.C.R. 2014 プレスリリース 総集編 発行：2014/09/25

<http://www.hcr.or.jp>

高齢者と障害者の自立のための

第41回国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2014

会 期：2014（平成26）年10月1日（水）～3日（金）

会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）

出展社数：585社・団体（日本530社・団体、海外55社）

開場時間：午前10時～午後5時 入 場 料：無料（登録制：当日または事前）

主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

15か国・1地域から585社が出展 昨年より展示ブースを拡充し開催！

いよいよ、国際福祉機器展 H.C.R.2014 が、10月1～3日の3日間、東京ビッグサイトで開催されます。介護・福祉機器の分野の展示会では、海外でも、アメリカの Medtrade、ドイツの REHACARE に次ぎ、アジア最大の規模といわれる H.C.R.には、今年は、新規の出展となるオーストラリアを含む15か国・1地域からの585社が出展、約20,000点の最新の福祉機器が集中展示されます。

出展ブースは前年度比で124小間増となり、さらに展示面積を拡大しての開催となります。

【開催内容】

1. 福祉機器約20,000点を総合展示

2. 国際シンポジウム

【プログラム No1】ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む

～認知症への理解拡大と日本の支援活動の充実のために 手話通訳

◆開催日時：2014年10月2日（木）13：00～16：00 ◆会 場：東京ビッグサイト会議棟6F

◆講 師：

【ヨーロッパ諸国の状況報告】George W. Leeson（ジョージ・W・リーソン）氏 /

オックスフォード大学高齢者研究所副所長、同大学ケロッグカレッジ上級研究員、
コペンハーゲン大学客員講師

【日本の状況報告】服部 安子 氏 / 社会福祉法人 浴風会 浴風会ケアスクール校長

◆チューター：近藤 純五郎 氏 / 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、
元厚生労働事務次官

◆参加費：1,000円

◆参加者：高齢社会の課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

※H.C.R.WEBサイト(<http://www.hcr.or.jp>)による事前参加申込受付は、満席のため終了させていただきました。
これから参加をご希望の方は、当日12：30よりキャンセル分のみ参加申込を受付いたします。

3. H.C.R.セミナー〔会議棟6Fにて開催、共通資料（1部1,000円）あり〕

◆開催日：2014年10月1日(水)～3日(金)

◆会 場：東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608会議室」

10月1日(水)

| 時間 | テーマ | 対象者 | 会場 |
|--|---|-------------------|--------------|
| 11:00～12:30 | 【プログラム No2】 高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方 手話通訳 | 一般、福祉サービス利用者・家族むけ | 会議棟6F |
| 14:00～16:30 | 【プログラム No3】 福祉施設の実践事例発表 ～役立つ活かせる工夫とアイデア | 介護・福祉職むけ | 会議棟6F (AB分割) |
| <p>《A会場》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①通所介護における介護予防の検証 ②褥瘡0（ゼロ）26年間の実践～実現する為の3つの指標 ③ポールで楽しむウォーキング講座の実践と成果 ④認知症ケア～バリデーション療法を通して、行動の原点を探る～ ⑤ハートピア堺式自立支援と認知症ケア、そして選ばれるデイサービス <p>《B会場》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①肢体不自由児の側弯の予防・改善～特別支援学校における取組み ②社会貢献を考える エーデル土山のCSR活動 ③地域の方々と施設利用者の日々の交流を創出するテラス活動 ④福祉機器を使って・さらば腰痛 ⑤やりがいのある職場を目指して | | | |

10月2日(木)

| 時間 | テーマ | 対象者 | 会場 |
|-------------|---|-------------------|-------|
| 10:30～12:00 | 【プログラム No4】 介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ ～ボディメカニクスの理解と活用 手話通訳 | 一般、福祉サービス利用者・家族むけ | 会議棟6F |

10月3日(金)

| 時間 | テーマ | 対象者 | 会場 |
|--|---|----------|-------|
| 11:00～12:30 | 【プログラム No5】福祉施設での感染症の知識と対応 ～知っておきたい感染症対策のポイント | 介護・福祉職むけ | 会議棟6F |
| 13:30～15:30 | 【プログラム No6】 社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用 ～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで | 介護・福祉職むけ | 会議棟6F |
| <p>1)基調講演 社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用 ～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長 社会福祉法人 恩賜財団済生会理事長 一般財団法人 地球・人間環境フォーラム理事長 炭谷 茂 氏</p> <p>2)事例報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①老人施設入所者の生活の質を高める野菜栽培 獨協医科大学 名誉教授 永井 伸一 氏 ②野生動物の皮革を有効活用することで広げる障害者の就労機会 岡山県セルフセンター 事務局長 田中 正幸 氏 ③MATAGI プロジェクトの目指す障害者の働く場づくり 皮なめしの老舗・山口産業専務取締役、MATAGI プロジェクト事務局長 山口 明宏 氏 | | | |

※H.C.R.WEBサイト (<http://www.hcr.or.jp>) による事前参加申込受付は、終了させていただきました。

これから参加をご希望の方は、当日のプログラム開始30分前よりお申込を受付いたします。

4. H.C.R.セミナー〔プログラム資料を当日販売、配付〕

特設会場 C (東 6 ホール内)

【プログラム No7】 はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー 手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに10のテーマに分類し、以下の時間帯でセミナーを開催します。

| | | | | | |
|-----------|---|--|---|--|---|
| 1日 (水) | 11:00～12:00 「トイレ・排泄用品」 NPO 法人 日本コンチネンス協会 牧野 美奈子 氏 | | 13:00～14:00 「住宅改修」 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽 氏 | | 15:00～16:00 「入浴機器」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏 |
| 2日 (木) | 11:00～12:00 「ベッド」 福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洸 氏 | | 12:30～13:30 「リフト等移乗用品」 福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洸 氏 | | 14:00～15:00 「杖・歩行器等 補助用品」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏 |
| | | | | | 15:30～16:30 「車いす」 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子 氏 |
| 3日 (金) | 11:00～12:00 「コミュニケーション 機器」 東京大学先端科学技術 研究センター 人間支援工学分野教授 中邑 賢龍 氏 | | 13:00～14:00 「福祉車両」 国立障害者リハビリテーション センター自立支援局 自立訓練部機能訓練課 自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏 国立障害者リハビリテーション センター病院リハビリテーション部 副理学療法士長 岩崎 洋 氏 | | 15:00～16:00 「自助具」 ヒューマン 代表 岡田 英志 氏 |

※主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など

※副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を会場にて販売します。1冊100円です。

特設会場 A (東 3 ホール内)

【プログラム No8】 高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ 手話通訳

高齢者が健康で豊かな生活を送るためには適切な食生活も重要なポイントです。普段の食生活において健康を意識するという方の割合が、高齢者ほど高いという調査報告もみられる一方で、三度の食事作りがおっくう、食材が残ってもったいない、作っても張り合いがない等の理由で、食事の回数が少ない、菓子で済ませるといった食事を疎かにする方も少なくありません。

近年、高齢者の栄養管理の重要性が様々なところで耳にします。特に寝たきりにならないためのポイントとして、適切な栄養量をバランスよく食事から取り入れること、かつ口から食べるという行為の継続が大切とされています。そのためにも、日々の食事作りの負担を軽くすることが必要であり、スーパーやコンビニの総菜

や市販弁当、宅配弁当、配食サービスは簡便な食事のための強い味方です。なお、高齢になると柔らかく食べやすい食事が中心になりがちであり、味を感じにくくなるため、濃い味付けを好むようになります。それぞれの特徴を理解して上手に利用しましょう。

この企画は、「特設会場 C」の特設ステージにおいて、毎日 13:00～14:00 の時間帯に「**高齢者の料理講座**」として開催します（※ 7 頁にタイムスケジュールを掲載）。

◆講師：今 寿賀子 氏 虎の門病院栄養部部長
押田 京子 氏 虎の門病院栄養部副部長

※H. C. R. 2009～2011 の間に本講座で紹介してきたレシピのすべてを 1 冊にまとめた冊子を、本講座会場にて販売します。1 冊 700 円です。

5. H.C.R.特別企画

特設会場 A（東 3 ホール内）

【プログラム No9】障害児のための「子ども広場」

障害のある子どもの発育段階において、福祉機器の利用は成長と生活において大きな可能性を拓けるものです。そこで、子ども向け福祉機器の開発・普及を目的に「子ども広場」を会場内に設置して子ども向けの福祉機器を総合展示するとともに、福祉機器の利用や療育についての相談コーナーや、保育士が常駐するひとやすみコーナーのほか、新企画「家のなかはキケンがいっぱい！発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー」や「子ども広場で広げよう！子どもの車いすトレーニング編」などを設けます。

I 福祉機器展示コーナー ～ 終日展示。展示製品について、下記時間帯に説明を聞くことができます。

| | 11:00～12:00 | 13:30～14:30 | 15:00～16:00 |
|--------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 10月1日 (水) | ○いす・カーシート ○食事用具・食器／衣類・靴 | ○学習機器／コミュニケーション機器 | ○車いす ○バギー・歩行器 |
| 10月2日 (木) | ○車いす ○バギー・歩行器 | ○いす・カーシート ○食事用具・食器／衣類・靴 | ○学習機器／コミュニケーション機器 |
| 10月3日 (金) | ○学習機器／コミュニケーション機器 | ○車いす ○バギー・歩行器 | ○いす・カーシート ○食事用具・食器／衣類・靴 |

II 相談コーナー

| | | | |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 10月1日(水)～3日(金) 3日間とも | 11:00～12:00 | 13:00～14:30 | 15:00～16:00 |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|

※上記の時間帯には、療育相談と福祉機器相談について、それぞれ 2 名の担当が配置されます。

III 家のなかはキケンがいっぱい！発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー

「勝手に外へ飛び出す」「台所の水を流し続ける」「TV を叩いて床に落とす」などなど、知的・発達障害のある子どもの行動特性と住環境が上手にマッチングしていないと、重大な事故につながる可能性があります。さらに、一日中子どもから目を話せない親にとっては、ストレスがたまるとな一方です。このコーナーでは、横浜市が実践している知的・発達障害のある子どもへの住宅改造事例を多数紹介しながら、家庭のなかでも簡単に活用できるスケジュールボードをラミネート加工で作成できる体験コーナーを設けます。

目からウロコがおちるような情報満載の本企画に、ご期待ください！

○日程：10月1日(水)～3日(金)の各日 13:00～15:00 に専門職が相談に応じます

* I～IIIの企画への運営ご協力：横浜市総合リハビリテーションセンター

IV 子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編

「車いすって疲れる」「うまくいきたいところにいけない」そんな悩みを持っていませんか?正しい技術や乗り方・漕ぎ方を知ればそんな悩みも解消されます。姿勢が変わるだけで、車いすの操作のしやすさは変わります。漕ぎやすい姿勢に調整・アドバイスをいたします。

ハンドリムの握り方や漕ぐときの腕の使い方にも様々なポイントがあります。今よりもっと楽に、早く、遠くに。自分の力で動きたいというお子さまの世界を広げるために正しい技術をお伝えします。各メーカーの車いすも試乗できます。ご家族でぜひご参加ください。

○日程：10月3日(金) ○参加定員：15名

○プログラム：①12:30~13:00 車いす試乗・調整 ②13:00~14:45 車いすトレーニング

③14:45~15:15 商品紹介

※車いす試乗の事前申込受付は〆切らせていただきました(子ども用車いすの展示は3日間終日実施)。

【このコーナーのお問合せ先】

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 E-mail：resja@resja.or.jp / <http://www.resja.or.jp/>

*IVの企画への運営ご協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

V ひとやすみコーナー

保育士が常駐しています。広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者(親)のみなさんと子育てについてお話ししましょう。

*Vの企画への運営ご協力：東京都社協保育士会

【プログラム No10】ふくしの相談コーナー

技師、作業療法士などの専門家が、福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じます。

*運営ご協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋

【プログラム No11】高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

～旅を楽しむ「10のコツ！」と便利なグッズ展

思いがけない体験、心に残る思い出…。

旅は多くの人にとってワクワクする楽しいイベント。年齢の高低や身体状況にかかわらずもっと旅に出かけたい、みんなで一緒に旅を楽しみたい、そんなときに立つ「10のコツ！」とコツに関係する約60点のグッズを集めました。

「旅に関するよかったこと」調査や旅の達人に聞いたコツ、そして、出展社の製品から選んだ「旅に役立つグッズ」をシーンごとに展示いたします。

「旅のコツ」は、旅に持っていくモノ、旅で工夫しているコツに関するアンケートをもとに、高齢者や障害のある人たちが旅を楽しむヒントや工夫を10ヶ条にまとめたものです。準備、移動、会話、食事や温泉など旅の各場面でのコツと役に立つと思われるグッズをどうぞご覧ください。

- 「旅の準備のコツ！とモノ」…カバンと整理のコツ／など
- 「移動のコツ！とモノ」…両手をフリーにするモノ／など
- 「会話のコツ！とモノ」…はっきり伝える会話のコツ／など
- 「旅に役立つコツ！とモノ」…コンパクトで便利なモノ／など

ご覧いただいたように実は普段使っているモノのなかにも、アイデア次第で旅にも使えるいろいろな工夫があります。どうか、手にとって、試してみてくださいと思います。

きっと、なかには、家族やお友だちに紹介したくなるモノもたくさんあるはずです。
楽しい旅をつくる「10のコツ!と便利なグッズ」を参考に、さあ、みんなで旅に出てみませんか!

*企画・監修：共用品推進機構、運営ご協力：NTT クラルティ、高齢社

【プログラム №12】福祉機器開発最前線（デモンストレーションに **手話通訳**）※

高齢者・障害者の自立と介護を支援する福祉機器は、今や日常生活のさまざまな場面に浸透してきています。特に、ここ数年は、最新のテクノロジーを活用した福祉機器の開発がますます盛んになり、また、ロボット技術を生かした機器の研究も進められるなど、高齢者・障害者の行動や自立生活の可能性を拓けてきました。

H.C.R.2014 では、こうした動向を踏まえ、今年も福祉機器開発の最前線を紹介していきます。

今年、経済産業省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業」の対象製品 12 点、厚生労働省の「障害者自立支援機器等開発促進事業」の対象製品 2 点の合計 14 点の注目の機器をリストアップしました。社会的な問題となりつつある認知症への対策を想定した機器をはじめ、さまざまなニーズに応える新製品について、各企業のご協力のもと、集中展示やデモンストレーションを行うなど、最先端の研究・開発に関する情報が発表される予定です。

◇場所：東 3 ホール内「特設会場 A」

<出展企業・団体と展示・デモンストレーション予定の製品>

1. 株式会社アイセック・ジャパン 字幕付き電話（字幕電話）
2. RT ワークス株式会社 電動歩行アシストカート
3. 株式会社今仙技術研究所 電動口レータ「バンビ」（段差および凹凸対応の歩行支援器）
4. 株式会社エイビス （高性能高齢者安全確保）みまもり支援システム
5. 株式会社オリィ研究所 もうひとつの自分の身体 分身ロボット” OriHime”（眼球移動や四肢不自由者用スイッチ等による遠隔操作を可能とする分身ロボットインターフェース）
6. CYBERDYNE 株式会社 介護用 HAL[®]（腰補助タイプ）
7. ロボット介護機器 PJ 基準策定・評価事業コンソーシアム（代表：（独）産業技術総合研究所）
 ロボット介護機器評価ツール
8. 株式会社 CQ- S ネット レーダーライト（レーダー技術を用いた安心見守りシステム）
9. 株式会社スーパーリージョナル 楽チン見守り「ラクミ〜マ」
10. TOTO 株式会社 ①<居室設置型移動式水洗便器>ベッドサイド水洗トイレ
 ②<浴槽設置型入浴支援機器>バスリフト

11. 富士機械製造株式会社 移乗介助用サポートロボット

12. 株式会社レイトロン カメラ組込み型画像認識システムを用いた見守りプラットフォーム

※企業名は五十音順

＊「特設会場 A」のセミナー・デモンストレーション開催予定表

H.C.R.セミナーの「高齢者むけの手軽な日々の食事【プログラム№8】」と「福祉機器開発最前線【プログラム№13】」のセミナー・デモンストレーションについては、以下のように開催します。

| | | | |
|-----------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1日 (水) | 11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ | 13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事 | 14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ |
| 2日 (木) | 11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ | 13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事 | 14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ |
| 3日 (金) | 11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ | 13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事 | 14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ |

※自由参加、定員 110 名、先着順にご案内いたします。

特設会場 B (東 6 ホール内、ガレリア入口横)

【プログラム №13】アルテク講座 2014

～身の回りにおけるテクノロジー (アルテク) で創る豊かで楽しい生活 **手話通訳**

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー (アルテク) を用いることで、障害がある人の生活が大きく変わります。

たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読むことができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマホでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持っていないなどの理由でメモをとれない人は IC レコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

このセミナーでは誰もが日常活用しているスマホ、タブレット、パソコン、IC レコーダ、デジカメなどの ICT (情報通信技術) 製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介します。

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 1日 (水) | 12:00~13:00 「スマホやタブレットをコミュニケーションエイドに変える - アルテクを用いた言語障害のある人の生活支援」 田代洋章 氏 (NPO 法人 e-AT 利用促進協会) | 14:00~15:00 「身の回りにおけるテクノロジー (アルテク) が支援技術に変わる - 支援技術を使いこなすための障害理解」 中邑賢龍 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) | 15:30~16:30 「アルテクを読み書きなど学びのツールに変える - アルテクを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援」 平林ルミ 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) |
|-----------|--|--|---|

| | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|--|
| 2日 (木) | 10:30~11:30 「スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変えるアプリ - アルテクを用いた視覚障害のある人の生活支援」 三宅啄 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) | | 13:00~14:00 「スマホやタブレットのアクセシビリティ - 肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす」 巖淵守 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) | | 15:00~16:00 「Windows パソコンのアクセシビリティと応用 - アルテクを用いた障害のある人の生活支援」 巖淵守 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) |
| 3日 (金) | | 12:00~13:00 「障害者差別解消法とアルテクの意味 - 合理的配慮の1つとしてのアルテク」 近藤武夫 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) | | 14:00~15:00 「障害者雇用とアルテク - 障害者雇用現場でのアルテク活用の実際」 近藤武夫 氏 (東京大学先端科学技術研究センター) | 15:30~16:30 「ゲーム用カメラを生活支援ツールに変える - 重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援」 田代洋章 氏 (NPO 法人 e-AT 利用促進協会) |

※自由参加、定員 90 名、先着順にご案内いたします。

東 4 ホール内 / 小間番号 : 4 - 08 - 05

【プログラム No14】被災地応援コーナー

昨年に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北 3 県 (岩手県、宮城県、福島県) のセルブ (障害者授産施設) の製品を販売いたします。

注 1) 題名の横に「手話通訳」マークのついたプログラムは、手話通訳を行います。

注 2) 各プログラム名の後の【 】内の数字は、プログラムNo.です。会場内でプログラムについてお尋ねの際などには、No.の数字をお申し出ください。

注 3) 取材について

- ①会期中の 10:00~17:00 の時間帯で可能です (東 1 ホール前に「プレス受付」を設置します)。
- ②事前に、H.C.R.WEB サイト (<http://www.hcr.or.jp>) の「出展社の方へ」内の「取材について」の内容をご確認ください。
- ③取材にあたっては、「プレス資料室」(東 1 ホール 2F「商談室 2」) もご用意しております。

H.C.R. 2014 事務局

(一財)保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F
TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 <http://www.hcr.or.jp>

【H.C.R.開催期間中の東京ビックサイト内での事務局ご連絡先】

TEL. 03-5530-1180 FAX. 03-5530-1600

※9月29日(月)10:00~10月3日(金)17:00の期間となります。